

ゲーム機、ソニー・マイクロソフトのシェア上昇！**任天堂勢の勢いが低下、ゲーム機の年末商戦は混戦模様？****～今年のキラーヒットはPSP「モンハン」と、Xbox 360「ヴェスペリア」～****詳細結果:** <http://kakaku.com/research/backnumber023.html>

株式会社カカコムが運営する購買支援サイト「価格.com (<http://kakaku.com/>)」が実施したユーザーへの意識調査「価格.comリサーチ」より、第23回調査『最新ゲーム機対決！ーゲームで遊ぶ頻度はどのくらい？ー』から、結果を一部抜粋の上、ご案内します。

ゲームタイトルの充実や値下げによって巻き返しを計る「プレイステーション3（以下PS3）」・「Xbox 360」。新たなゲームの楽しみ方を提案した「Wii」の一人勝ち状態から、新たなシェア競争へと進みつつある中で、消費者のゲーム機の所有状況やプレイ頻度、ソフトの購入頻度などを調査しました。

また、一部に関しては、昨年年末に実施したゲーム機に関する調査結果とも比較しています。

参考：第13回価格.comリサーチ「ゲーム機最新事情！」（調査期間：2007年12月25日～2008年1月7日）

<http://kakaku.com/research/backnumber013.html>

【調査方法・ユーザーパネルについて】

調査エリア：全国 調査対象：価格.com ID 登録ユーザー

調査方法：価格.com サイトでの Web アンケート調査

回答者数：6,216人 男女比率：男 88.8%：女 11.2%

調査期間：2008年10月20日～2008年10月27日

所有率：Wii・ニンテンドーDSに陰りのきざし、PS3・PSP・Xbox360が好調

ゲーム機の種類別の所有率では、携帯ゲーム機の「ニンテンドーDS」がダントツのトップで、60%以上という結果を示した。次点に同じ携帯ゲーム機の「PSP」と、任天堂の「Wii」がほぼ同率で並ぶが、これらの所有率は40%にも満たず、首位と次点の間には相当な開きがあるといえる。

発売以来、既存のゲームユーザー以外の多くの人にリーチしてきたニンテンドーDSの強さは、一時期は品切れを起こすほどの売れ行きで、すでにかなり多くの人が所有しているという結果になった。

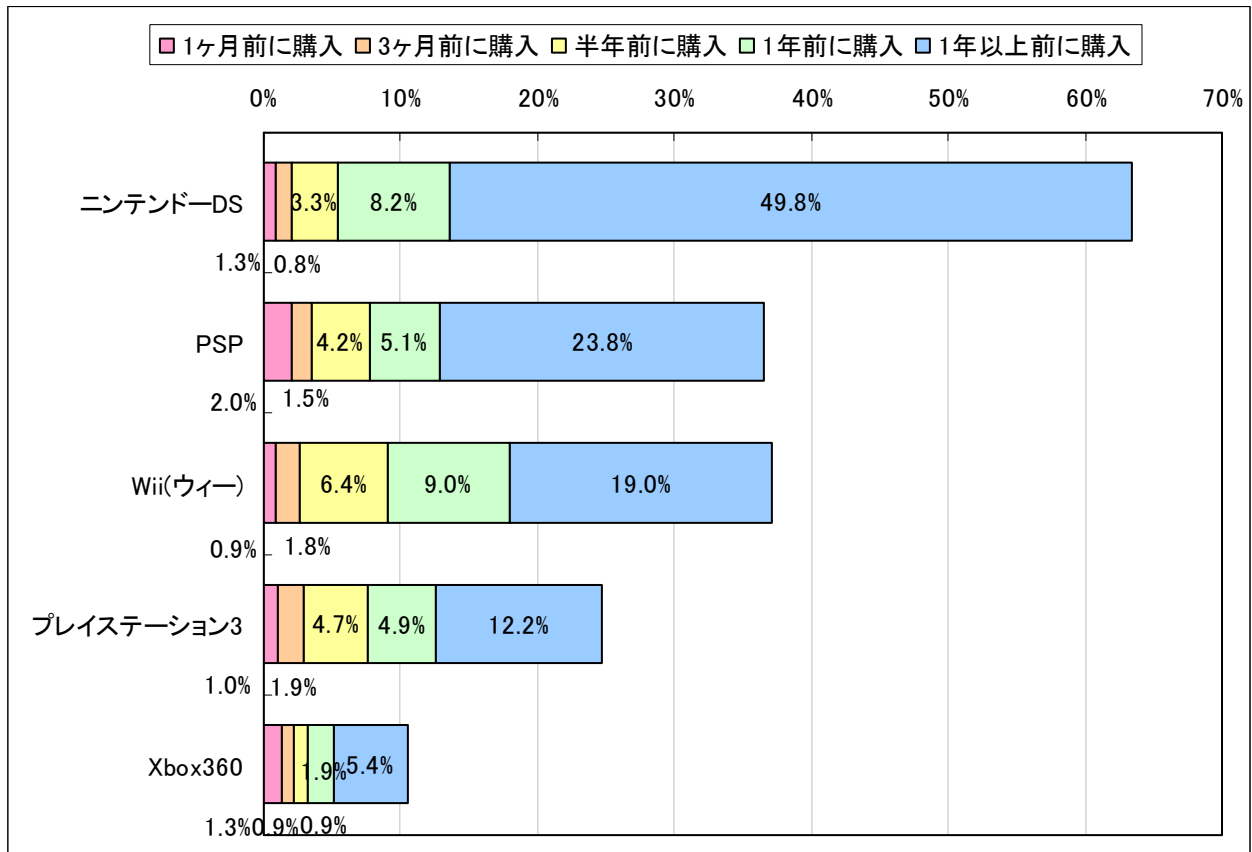
しかし、ここ1年間に購入したゲーム機の割合で見ると、昨年まで好調な売れ行きを見せていたニンテンドーDSならびにWiiの任天堂製ゲーム機にも陰りが見えていることがわかる。

ニンテンドーDSの場合は、発売からすでに4年ばかり経過していることと、その所有率の高さから、販売台数に陰りが出てくるのも自然な流れと考えられるが、2年前に発売され人気を呼んだWiiは、大ヒットとなった「Wii Fit」に続くキラータイトルの少なさもあり、伸びが鈍化している様子が見て取れる。

一方、この1年で見ると、ソニーの「PSP」と「PS3」、そしてマイクロソフトの「Xbox 360」のいずれもが2ポイント以上の伸びを示している。特に、発売時期が早かったPSPについては、昨年の調査ではそのシェア低下が心配されたが、カプコンの「モンスターハンターポータブル 2ndG」がキラーヒットを飛ばしたことに伴い、本体の売り上げも急増した形だ。PS3については、発売当初はゲーム機としては価格が高いこともあり、予想されたほどの販売には至らなかったが、昨年の値下げによってお買い得感が増したこともあり、徐々にシェアを伸ばしつつある。また、日本市場では苦戦が伝えられるXbox 360も、この夏以降RPGのビッグタイトルが続々投入され、本体価格もエントリーモデルなら19,800円からという値下げを行ったこともあり、これまで購入を躊躇していたゲーマー達にも浸透しつつあるようだ。

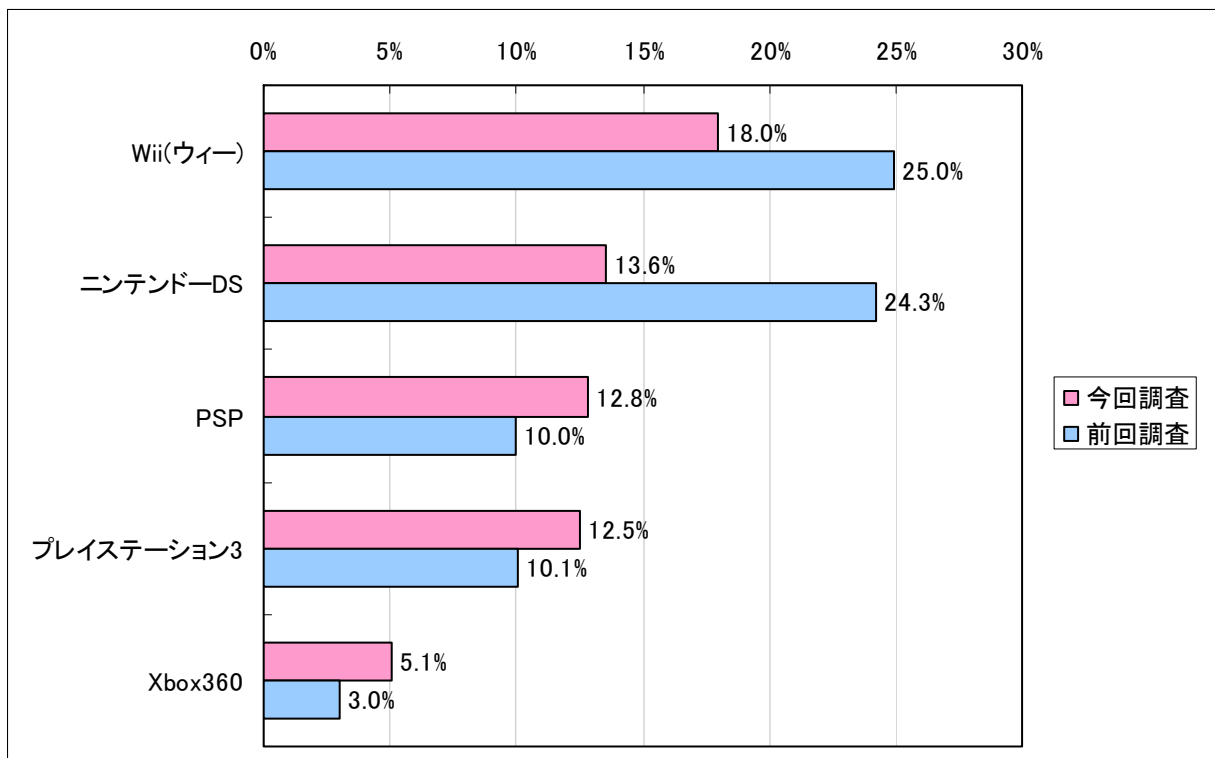
【図 1. 以下のゲーム機は購入からどのくらい経過していますか？

それぞれ最もあてはまるものをお選び下さい】



【図 2 . 1 年以内に購入したゲーム機の所有率】

(前回調査との比較)



【その他の設問】

「各ゲーム機で遊んでいる最近の頻度について」

詳細は右記URLにてご確認いただけます <http://kakaku.com/research/backnumber023.html>

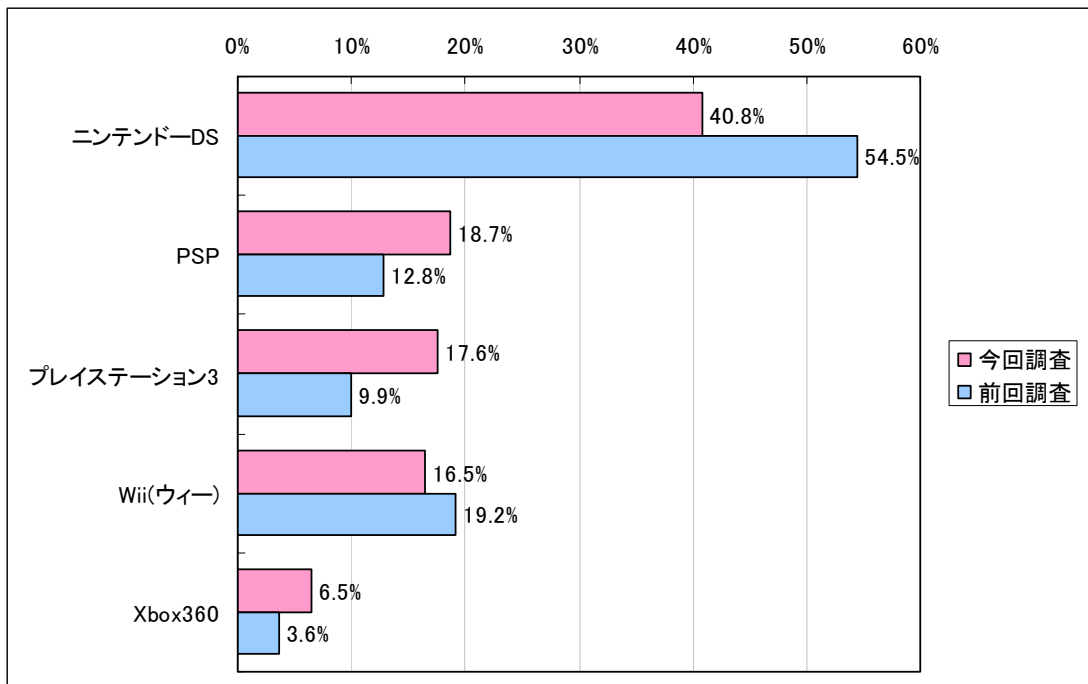
最も遊んでいるゲーム機は、ニンテンドーDS！PS3、PSPがWiiを追い抜く！

この半年間でもっともプレイしているゲーム機を聞いたところ、やはりシェアの高い「ニンテンドーDS」がダントツのトップとなった。興味深いのは、次点のゲーム機で、シェアでいえば二番目の「Wii」が、ソニーのPSP、PS3に追い抜かれる結果となっている。

前回調査との比較で見ても、ニンテンドーDSとWiiはそれぞれポイントを落とし、逆にPSPとPS3は大きくポイントを上げている。ニンテンドーDSについては、所有シェアが高いのと、ほかのゲーム機を持っていないライトユーザーが多いため、ポイントはいまだ高めであるが、下げ率でもダントツのトップとなってしまう。

最近の遊んでいる頻度についての回答結果 (<http://kakaku.com/research/backnumber023.html>) とも大きく関連するが、ニンテンドーDSやWiiは最近キラータイトルとなるゲームに恵まれておらず、昨年に比べると全体的にプレイ時間も減っている傾向が見て取れる。これに対し、「モンスターハンターポータブル 2ndG」の大ヒットで波に乗っているPSPと、ようやくビッグタイトルがそろってきた感のあるPS3は、プレイ時間も順調に伸びているようだ。

【図3. この半年間で最も遊んでいるゲーム機をお選び下さい】



ゲームソフト購入頻度：Xbox360が最多、ヘビーゲーマーの多さを裏付ける

ここ1年でのゲームソフトの購入本数を聞いたところ、全体的には、「1~2本」あるいは「3~5本」というゾーンがほとんどを占めており、だいたい3ヶ月から半年の間に1本程度の割合でゲームを購入するという人が多いようだ。

機種別に見てみると、「Xbox 360」におけるゲーム購入率の高さが群を抜いている。ほかのゲーム機では、「1~5本」と答えているユーザーがもっとも多く全体の7割前後を占めているが、Xbox 360だけは「6~10本」と答えたユーザーが31.3%もあり、11~15本と答えたユーザーも11.0%いるなど、かなりのゲーム購入本数になっている。ここ1年で発売されたタイトルが多いこともあるが、購入本数の多さには驚かされる。Xbox 360にヘビーゲーマーが多いことが裏付けられた結果だ。

「PS3」も比較的多くのゲームを購入するユーザーが多いが、まだヒットタイトルが少ないこともあって、Xbox 360に比べると購入率は低い。

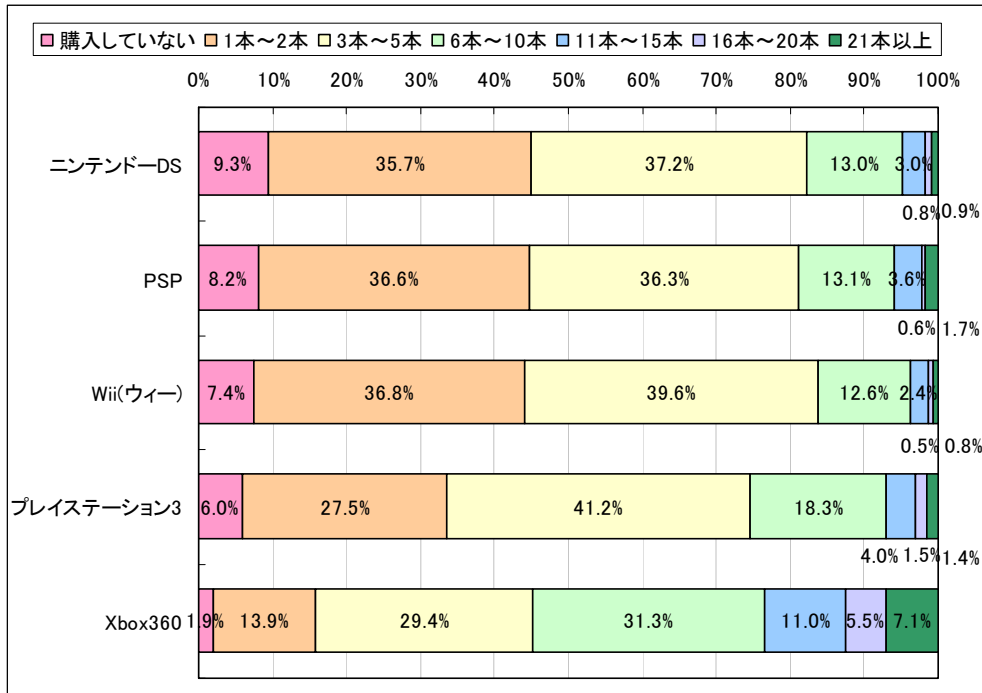
なお、ここ半年でのゲームプレイ時間が長い「PSP」だが、ゲーム時間に比例してゲームタイトルの購入も活発になっているかというところではない。36.6%が1~2本しかゲームを購入しないと答えていることからもうかがえるように、PSPの場合、やりこみ度の高い「モンスターハンターポータブル 2ndG」などのゲームをずっとやり続けるという傾向があるようだ。モンハン人気で好調なPSPではあるが、それ以外でキラータイトルが出ないのが、悩みの種といえるかもしれない。

【その他の設問】

「図3で選択したゲーム機の中で、最近1年で購入したゲームソフトの本数について（新品、中古含む）」
結果：全体平均は4.2本

詳細は右記URLにてご確認いただけます <http://kakaku.com/research/backnumber023.html>

【図 4. 最近 1 年で購入したゲームソフトの本数(ゲーム機別集計)】



【その他の設問】

「図 3 で選択したゲーム機の中で、1 年間で最も面白かったゲームソフトについて (フリーアンサー)」

「今後期待しているゲームソフト、またはシリーズ名について (フリーアンサー)」

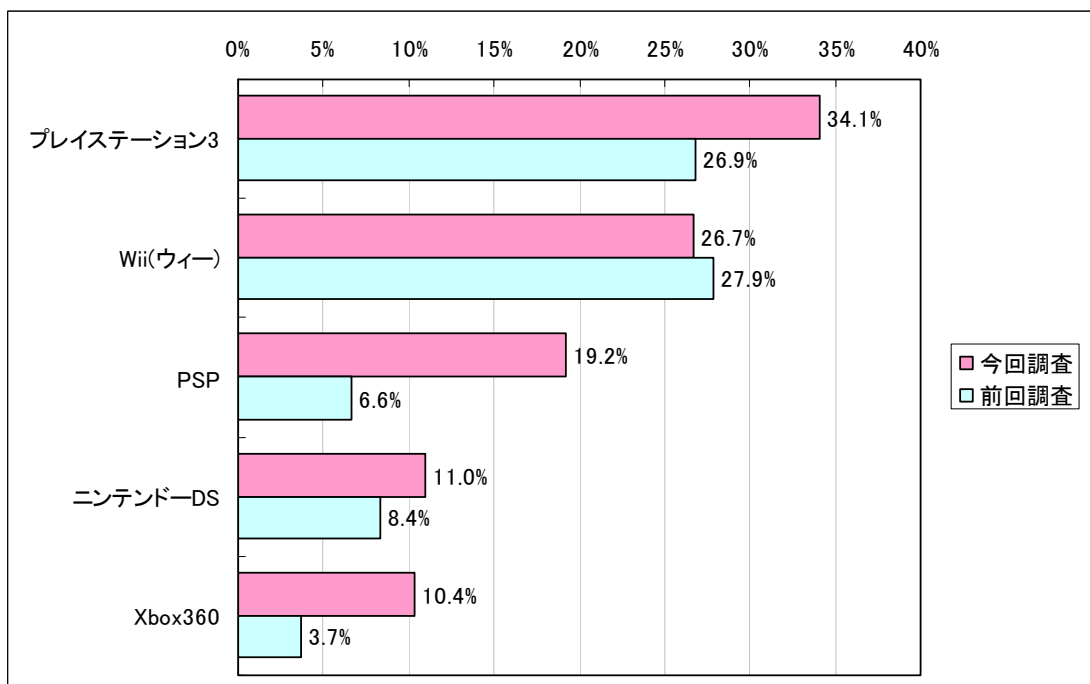
詳細結果は右記URLにてご確認いただけます <http://kakaku.com/research/backnumber023.html>

今後欲しいゲーム機:PS3 が 34.1%とトップ、PSP もポイント上昇

今後欲しいゲーム機を聞いたところ、「PS3」が 34.1%でトップとなった。昨年の調査では、PS3 と Wii が人気を二分していたが、今年は値下げ効果もあってか PS3 のほうが人気となっている。

「Wii」は昨年よりもややポイントを落とした結果だが、それでも 26.7%の人が欲しいと答えている。昨年よりも大きくポイントをあげたのが「PSP」だ。昨年調査ではわずか 6.6%だったが、今年は 12.6%も上げて 19.2%にまで至っている。「ニンテンドーDS」も昨年の 8.4%より若干ポイントを上げたが、その伸びは鈍化していると見るべきだろう。最下位の「Xbox 360」についても、昨年の 3.7%よりは大きくポイントを上げており、善戦していると見ることができる。

【図 5. 今後欲しいゲーム機をお選び下さい】



■総評 鎌田剛 カカコム メディアクリエイティブ部 部長

今年の年末は家庭用ゲーム機が盛り上がりを見せている。

「PS3」「Wii」「Xbox 360」の次世代ゲーム機では、昨年までは、ゲームに親しみの少ないユーザーにも新たなゲームの楽しみ方を提案した「Wii」が一人勝ちの様相を呈していたが、ほかの2機種も、キラータイトルを徐々に揃え、巻き返しを図っている。またこの2機種は、この秋それぞれ大幅な値下げを行ったこともあり、従来からのゲーマーもこれらの次世代機に乗り換えつつあるといえる。

昨年まで「ニンテンドーDS」圧勝のイメージだった携帯ゲーム機では、この夏以降、空前のヒットとなった「モンスターハンターポータブル 2ndG」（カプコン）の効果で息を吹き返した「PSP」の動向にも注目が集まっている。元々ゲーム機としての性能がかなり高いPSPだが、値下げとカラーバリエーションの増加、そしてキラータイトルの投入によって、その価値が見直されている。

今回の調査結果でも、こうした混戦の様子が明らかになった。所有率では、昨年大きくリードしていた任天堂勢にまだ分があるものの、特に据え置き型ゲーム機ではここ1年で見る限り購入数の差は明らかに縮まっている。

プレイ頻度においても、任天堂勢の勢いがだいぶ弱まっているのに対し、ソニーやマイクロソフトは高い結果となった。プレイ頻度に関しては結局のところ、ユーザーが遊びたいと思うキラータイトルが発売されるかどうかにかかっているといえる。発売から3年が経過したXbox 360は今年の夏以降、国産のキラータイトルが数多く発売され、シェアを大きく伸ばしている。発売から2年が経ったPS3も、ようやくビッグタイトルが充実してきたところで、徐々にシェアを伸ばしている。これら2機種のゲームタイトルはやりこみ度も高いため、多くのゲーマーの心を着実にとらえてきているといえそうだ。これに対し、Wiiのほうはなかなかこれといったキラータイトルが出ず、やや苦戦を強いられている。

携帯ゲーム機に目を向けると、ニンテンドーDSの所有シェアは相変わらず高いものの、プレイ頻度はここ1年で落ちてきており、こちらもややヒット作不足が響いている。ニンテンドーDSで人気なのは、昨年とほぼ変わらない「脳トレ」「どうぶつ森」（任天堂）などのタイトルで、今年発売されたタイトルは人気の上位になかなか入ってこないという結果になっている。期待の大作であった「ドラゴンクエストIX」（スクウェアエニックス）の発売も来春に延期され、この年末は苦戦しそうな勢いであるが、先日発売になった新モデル「DSi」がどこまで伸びるかに注目が集まる。

これに対して、今年の夏以降大ヒットをとばしたPSPの「モンスターハンターポータブル 2ndG」の支持率は非常に高く、PSPのシェアはここ1年でだいぶ伸びた。ただ、PSPにも、これに続くビッグヒットがないのは確かだ、モンハン頼みという図式はまだ変わっていないのが現状だ。

今年の年末のゲーム機を取り巻く状況をひと言で表すなら、「任天堂の勢い低下とそれ以外の勢力の伸張」ということになるかと思うが、どのゲーム機も必ずしも万全という状態ではなく、この年末のゲーム機市場は各機種入り乱れての混戦模様になると思われる。今後のカギを握るのは、「ドラゴンクエスト」「ファイナルファンタジー」といった人気シリーズの発売だが、これらのシリーズ頼みではこれまでと何ら変わることがなく、新しい展開は望めない。今年大きくヒットしたPSPの「モンスターハンターポータブル 2ndG」や、Xbox 360の「テイルズ オブ ヴェスペリア」（バンダイナムコ）など、新たなキラータイトルの登場が唯一の明るい話題といえるが、ユーザーのゲーム離れを止めるためにも、こうしたヒットタイトルをコンスタントに出していけるかどうか、今後の各ゲーム機の将来を占うカギとなりそうだ。

※フリーアンサーを含む詳細結果、および過去のリサーチアーカイブは以下URLをご参照ください

<http://kakaku.com/research/backnumber.html>

【価格.comについて】

パソコン、家電、カメラをはじめ、ブロードバンドや携帯料金プラン、自動車保険、生命保険など約2,742万点の商品・サービス情報を掲載。

月間利用者は、約1,474万人（重複なし）、蓄積されたクチコミは累計820万件を超える。

（データは2008年9月末現在）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社カカコム 広報担当

e-mail: pr@kakaku.com Tel:03-5805-7511